

和白干潟を守る会 2011年度活動報告

和白干潟を守る会事務局

2011年度のまとめ

1988年に「和白干潟を守る会」を発足して、今年4月で24年が経ちます。大切な和白干潟の自然を未来の子どもたちに残すために、自然観察会やクリーン作戦などさまざまな活動をたゆまなく続けてきました。

昨年3月11日に東日本大震災が起こり、福島原発事故も起こりました。和白干潟を守る会では、被災した仙台市の蒲生干潟の保全活動を支援する募金に取り組みました。11月の「第23回和白干潟まつり」でも蒲生干潟応援のパネル展を開催しました。守る会では脱原発の方針を確認しました。

日本ではラムサール条約登録湿地が37カ所ですが、「和白干潟」はまだ候補地のままです。干潟まつりでも「ラムサール宣言」を採択し、環境大臣や福岡市長、福岡県知事に届けました。

また「和白干潟を守る会」の23年の環境保全活動に対し、福岡県知事から表彰を受け、日立親切会から「善行賞」をいただきました。活動への企業や学校の支援が増え、「クリーン作戦」への参加が大きく増えました。企業はクリック募金を企画したり、多彩に協力していただきました。一昨年に続き昨年も企業の協力が増えた1年だったと思います。和白干潟を守る会は社会的にも認知されてきていると感じ、ありがたく思います。また若者が運営に参加するようになりました。

2011年秋で和白干潟通信が100号になり、100号突破記念として、2012年1月発行の101号の表紙をカラー印刷にしました。2011年度もなかなかすばらしい活動ができたと思います。

今冬はミヤコドリが7羽飛来しました！2012年は、世界の湿地や干潟の保全が進むように願っています。今年度も和白干潟を守る活動に、皆さまのご協力をお願いします。和白干潟がぜひ「ラムサール条約登録湿地」となるようにがんばりましょう！自然豊かな和白干潟を、みんなの努力で未来の人たちに渡したいと思います。引き続き若い人たちの活動への参加を心から待っています！

和白干潟を守る会 代表 山本廣子

1. 和白干潟環境教育プログラムによる「自然観察会」、「クリーン作戦と自然観察会」、「和白干潟まつり」を通して、多くの市民、特に子どもたちに自然の大切さを実感してもらい、自然保護の気運を高める。

1. 和白干潟自然観察会

2011年4月、観察会グループミーティングを行い、5月に観察会の案内状を保育園、小中学校、高校、公民館等へ送付した。観察会の依頼を受けると、事前に見学・打合せを行い、観察会に来る学校等でパンフレットやビデオを使った事前学習をしてもらった後、観察会を実施した。

2011年度中（1月～12月）の和白干潟自然観察会は、年間12回で、延べ804名の参加があった。学校関係からの依頼では、保育園2回（香椎保育所、玄海風の子保育園）71名、小学校4回（和白小学校、西戸崎小学校）401名、中学校1回（筑陽学園中学）76名、高校2回（柏陵高校、福岡魁誠高校）85名、合計9回、633名あった。その他

に、「MS & ADグループ」、「南区横手校区環境活動委員」、「韓国仁川市の視察団グループ」などの団体への和臼干潟の観察会が3回、延べ171名あったほか、「福岡植物友の会」の和臼干潟の植物と鳥の観察会に協力した。また、和臼干潟保全のつどいとして「和臼干潟の生きものやハマボウを見る会」を7月に開催し、70名の参加があった。

学校関係からの依頼は、新たに西戸崎小学校からバードウォッチングの申込みがあった。更に、企業から観察会とクリーン作戦を兼ねた申込みなどもあった。ガイドの固定化と高齢化の問題に対しては、福岡市が推進するボランティアインターンシップ制度を活用し、一般からの参加を募ったが、参加者はなかった。引き続き、「あすみん」との連携を継続して行きたい。

2. 和臼干潟の自然観察ガイド講習会

和臼干潟の自然の特性を良く理解して観察会の案内が出来るように、5月29日に第14期「和臼干潟の自然観察ガイド講習会」を開催し、15名が参加した。

講師：堀 謙治 氏（財）日本自然保護協会自然観察指導員

ガイド講習会への参加者が自然観察ガイドとして長年従事された方に固定化しており、本来の目的であるガイドスキルの向上については、ほぼ水準に達していると考えられ、新たなガイド養成が望まれている。

3. 第23回和臼干潟まつり

11月27日(日)9実施。「和臼干潟まつり」は多くの人たちに来てもらい、干潟のすばらしさと危機にある現状を知り、自然環境を守ることの大切さを認識してもらう目的で毎年企画している。グリーンコープ生協ふくおか福岡東支部の協力を得て今回で23回を迎えることができ、約450名の参加があった。今までにないくらいの好天に恵まれ、楽しい一日となった。今年は東日本大震災で大きな被害を受けた仙台市の蒲生干潟の再生を願い、当地のパネルとカンパ箱も置いた。守る会の活動パネル展示も増え、自然観察会の様子や、観察会に来た子どもたちの様子など壁一面にはいりきらないくらいになった。来場者も立ち止まって見てくださった。

今年も昨年に引き続き、最後に参加者一同で「ラムサール宣言」を出し、福岡市長と県知事、環境大臣に送付した。

昨年に引き続き、来場者、出展者にそれぞれのアンケートを実施、まつりについての感想や意見を聞いた。初めての参加者からの回答が多かったが、「楽しかった、また来たい」「ラムサール登録地にして、皆で守りたい」の声が多かった。

広報には取り組んでいるが、以前よりもマスコミ等で報道されなくなったこともあり、参加者を増やす新たな取り組みが必要である。干潟まつりプログラムの自然観察会は中高年にも人気があり、子どもたちの干潟で遊ぶ体験も好評であることから、ポスター、チラシの工夫などで大いにアピールする必要がある。

4. 和臼干潟クリーン作戦と自然観察（毎月第4土曜日）

毎月第4土曜日午後3時から5時まで、海の広場から唐原川河口、和臼4丁目の範囲をその時の状況に合わせて清掃し、同時に自然観察、水質や、砂質調査を実施した。年間12回、延べ421名が参加し、666袋のゴミを回収した。定例のクリーン作戦の他に、和臼干潟の生きものや

ハマボウを見る会、干潟まつりや臨時の清掃などに延べ281名が参加し、302袋を回収した。全体では延べ702名が参加し、968袋のゴミを回収した。この内、守る会人数は、個人、会場整備、まつり、ハマボウ、合わせて延べ204名だった。粗大ゴミは、自転車、タイヤ、布団、浮き、家具類、流木など、様々な物があった。

クリーン作戦実績比較 (2010, 2011)

年度	活動項目	回数	延べ参加人数(人)	ゴミの量(袋)
2010	クリーン作戦	12	763	1,553
	その他	19	273	271
	合計	31	1,036	1,824
2011	クリーン作戦	12	421	666
	その他	21	281	302
	合計	33	702	968
増加割合		%	68%	53%

総括すると、参加総人数は昨年の約7割、ゴミの量は約5割となっている。(上表参照)

- ・ 4月23日(土)のクリーン作戦は「干潟を守る日」と「春のビーチクリーンアップ」に参加。
- ・ 6月の12日(日)の「ラブアースクリーンアップ」は雨天のため中止。
- ・ 7月24日(日)の「和白干潟の生きものとハマボウを見る会」では参加者で牧の鼻付近を清掃。
- ・ 9月24日(土)のクリーン作戦は「国際ビーチクリーンアップ」に参加し、ゴミデータ調査を実施。

昨年に比べてゴミの回収量は半減したがこれは、アオサの発生が少なかったためである。人工ゴミも比較的少なかった。新しく参加した企業も増えており大変良い傾向である。駐車場にあった「道具」倉庫を撤去し、港湾局の倉庫内外に移した。

2. 和白干潟の大切さと保全の必要性を広く社会に訴えるため、和白干潟を取り巻く自然環境の変化について、干潟及びその周辺の生物の調査、漂着ゴミ調査などの活動を継続し、調査結果を公表する。

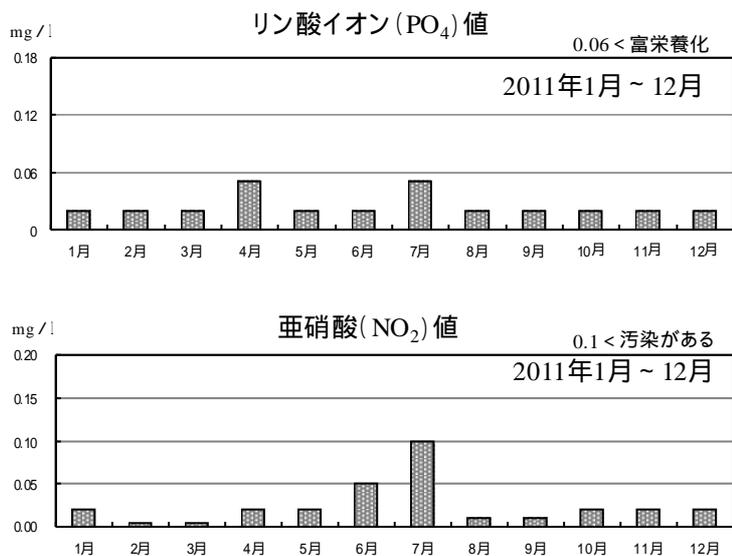
5. 調査

調査項目としては毎月実施する水質調査及び砂質調査、9月の国際ビーチクリーンアップ参加でのゴミ内容調査のほか、水鳥調査などを実施した。

(1) 水質調査 (毎月1回実施)

リン酸イオン値(PO₄)が0.06を超えると富栄養化状態を表す。2011年度は、4月と7月が0.05とやや高かったものの、その他の月は0.02~0.05の間である。

亜硝酸値(NO₂)は海水の汚染度を表す。和白干潟海水の2011年度の亜硝酸値は、ほぼ0.02~0.1の間にあり、「やや汚染がある」状態であるが、2月、3月、8月は0.01



を下回っていた。

化学的酸素要求量(COD)は毎年夏場には悪化する傾向にある。2011年度は8月には5を上回ったが、例年このような状態である。

透視度については、年間平均で3白干潟の値を示している。

(2) ゴミ内容調査

9月の国際ビーチクリーンアップにて、干潟に漂着したゴミを回収し

て内容調査を実施した結果、39種類のゴミが回収された。特に多かったのは、プラスチックシートや袋の破片、食品の包装・容器、袋類・プラスチックなどであった。

(3) 砂質調査

2009年3月から始めたもので、和白干潟・海の広場前10ヶ所地点と150ヶ所沖合地点の表層酸化層の厚さと還元層の黒色度を測るものである。表層酸化層が厚いほど干潟が健康な状態にあることを示す。

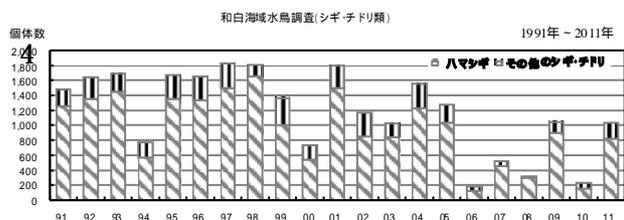
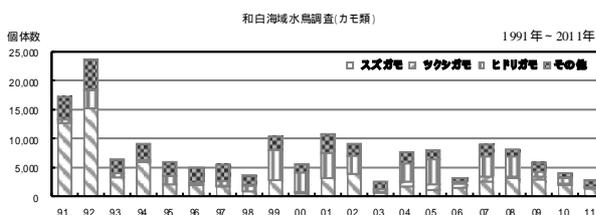
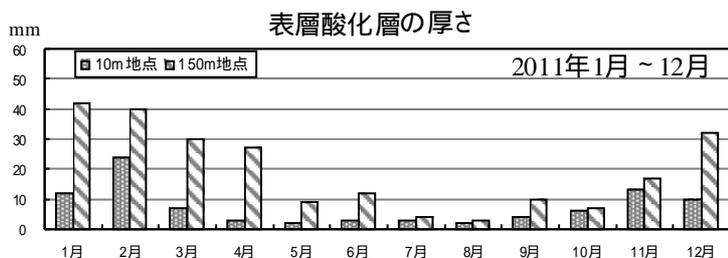
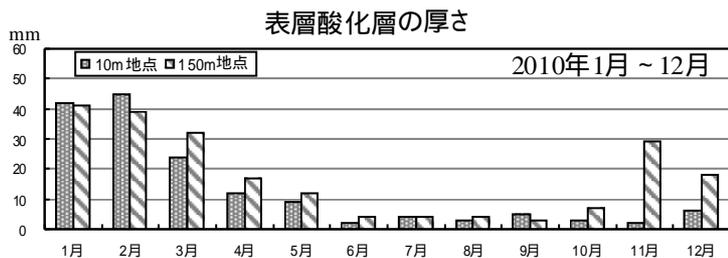
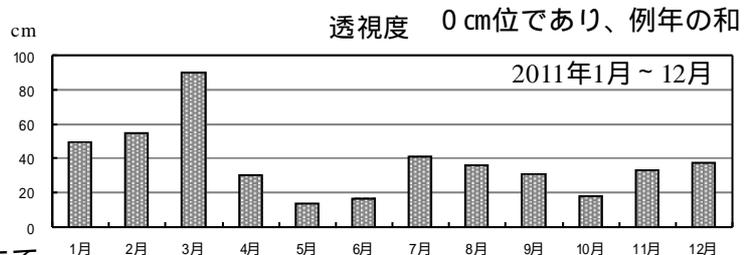
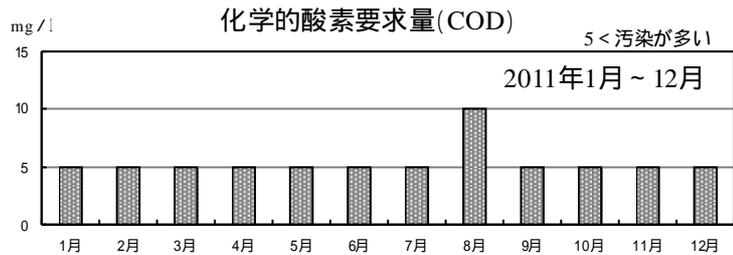
右のグラフは、2010年度と2011年度の表層酸化層測定結果である夏場には数mmまで下がり、秋から冬にかけて厚くなる傾向にある。

沖合いの方が厚い傾向にあるが、2010年の秋にアオサが漂着して浜辺に堆積したことで、2010年の11月から2011年の4月の間は、浜辺側が極端にうすくなっている。

(4) 鳥類調査

鳥類調査では以下の調査に協力した。

1月 和白海域水鳥調査(日本野鳥の会福岡・IWRB 国際水禽湿地調査局)
 和白海域の水鳥の越冬数(和白海域水鳥調査)は、カモ類は昨年の4020羽よりは減少し、最多の1992年の23,719羽と比べて約10分の1の2,735羽に減少。シギ・チドリ類は昨年の233羽よりは増加したが、1990年代の約1,600羽から3分の2の1096羽に減少した。



環境省モニタリングサイト 1000 シギ・チドリ調査(環境省・NPO 法人バードリサーチ)

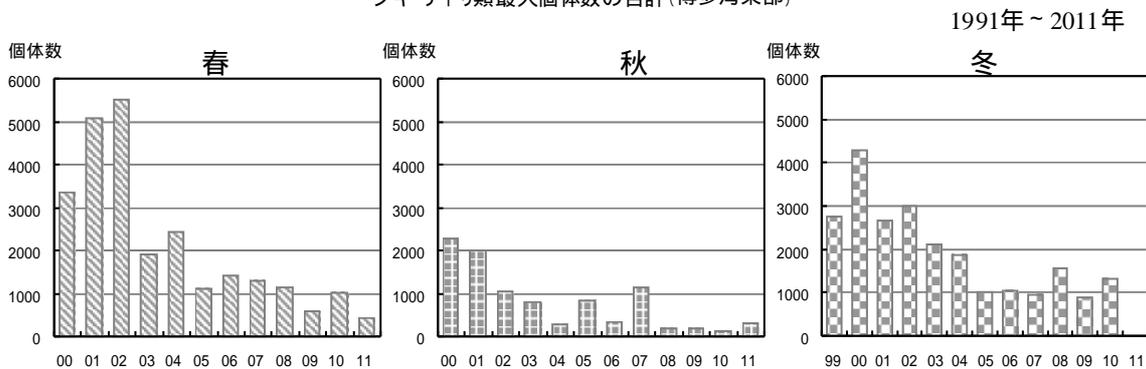
冬期: 2010年12月、2011年1~2月今津と博多湾東部各3回実施

春期: 2011年4月~5月今津と博多湾東部各3回実施

秋期: 2011年8月~9月今津と博多湾東部各3回実施

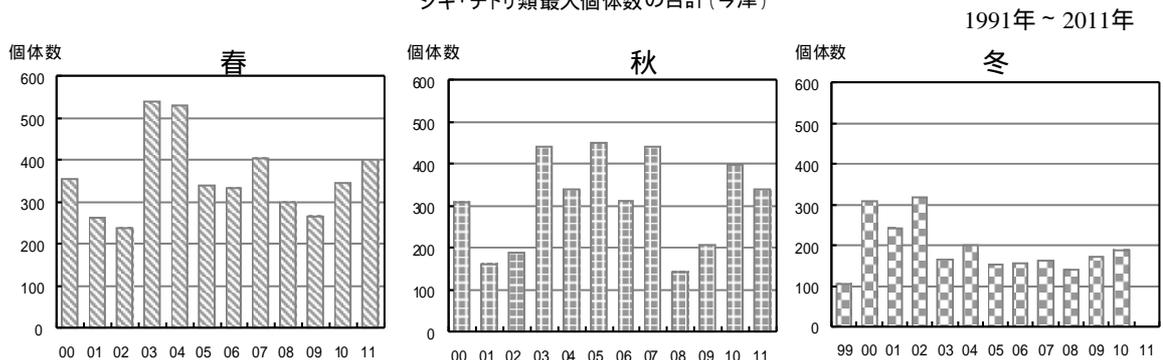
博多湾東部海域のシギ・チドリ類最大数合計は、2010年度冬期は2000年の4,300羽から1326羽に減少し(昨年884羽)、2011年春期は2002年の5,509羽から465羽に減少(昨年1,027羽)。2011年秋期は2000年の2,271羽から302羽に減少した(昨年116羽)。希少種では、冬期にクロツラヘラサギは最大16羽(昨年17羽)、ツクシガモ356羽(昨年503羽)、ズグロカモメ1羽(昨年2羽)をカウントした。

シギ・チドリ類最大個体数の合計(博多湾東部)



今津のシギ・チドリ類最大数合計は、2010年度冬期は2002年の319羽から188羽に減少し(昨年171羽)、2011年春期は2003年の538羽から399羽に減少(昨年345羽)。2011年秋期は2005年の450羽から339羽へ減少(昨年396羽)。希少種では、冬期にクロツラヘラサギは最大37羽(昨年27羽)、ツクシガモ61羽(昨年31羽)、ズグロカモメ15羽(昨年19羽)をカウントした。

シギ・チドリ類最大個体数の合計(今津)



この20年ほどで博多湾東部の鳥類は大きく減少した。今津はやや減少か横ばい状態である。2011年の鳥類調査参加者は、毎回7名から11名、延べ84名が参加。また一斉調査以外にも個人で調査を行った。

ミヤコドリは2011年に2羽が越夏した。

2011年秋の観察状況は、飛来が1か月も遅かった。11/4に1羽観察、11/5に2羽観察、10/10に7羽観察した。(2010年は8羽観察)しかし以前のようにずっと和白干潟にいることは少なく、今冬は香椎海岸の岩場で見られることが多い。

3. 貴重な鳥類をはじめとする、多様な生物の宝庫としての和白干潟を、ラムサール条約登録地とするための取り組みを強化する。また、和白干潟の環境を保全するため、クリーン作戦に取り組む。さらに博多湾人工島事業の凍結・縮小を含めた和白干潟保全策を市民や関係機関に訴え、広報の強化に取り組む。

6. ラムサール条約登録をめざして

(1) 和白干潟まつりラムサール宣言

11/27「第23回和白干潟まつり」で「第23回和白干潟まつりラムサール宣言」を出した。

1. 私たちはこれからも大切な和白干潟の保全活動と和白干潟の環境保全の啓発活動を続けていきます。
2. 福岡市に、博多湾全体のラムサール登録に先立ち、まず条件の整っている和白干潟のラムサール条約登録を国に申請することを求めます。
3. 環境省に、和白干潟のラムサール条約登録に早急に取り組むことを求めます。

2011年11月27日

第23回和白干潟まつり参加者一同

上記宣言は福岡市長、福岡県知事、環境大臣に送付した。

(2) 市民、自治体、議会に対する働きかけ

市民への働きかけとして、第23回和白干潟まつりにおいて、参加者アンケートで、「和白干潟をラムサール登録地にしたいか」を問い、全員から賛意を得た。

4月に行われた統一地方選挙(福岡市議会選挙)において、東区から立候補している候補者全員に、和白干潟通信を送り、ラムサール条約登録への協力要請のアピールをした。

6月に福岡県知事から環境保全功労者表彰を受けた際に、山本代表が臨席の副知事に資料を渡して、アピールした。

「ラムサール条約登録の障害になっているものは何か」の問い合わせに地元福岡市議会公明党議員から、地元住民の理解不足、福岡市の開発重視姿勢が大きな障害であると回答。

(1/16)

7. 和白干潟の環境保全を目指して

(1) クリーン作戦の取り組み

11年度は、アオサの大量発生が少なく、クリーン作戦としてはやりやすかった。

昨年に引き続きキャノンの社会貢献キャンペーンの一環としての新聞広告、キャノンクリック募金の対象に選ばれるなどで和白干潟の知名度が上がり、企業、高校生の団体参加が増えた。

新たな企業や、近隣の地域住民有志の方の継続的な参加も増えた。企業によっては、独自の日程でクリーン作戦と自然観察会を企画されるようになった。

(2) 博多湾人工島事業に対する取り組み

人工島事業は新市長に交代後も、続行されている。福岡市は人工島が予定通りに売れないため事業資金の負担に苦しみ、負担軽減の様々な検討を行っているが、環境保全についての検討は一切見られない。

今年度は自治体が全国的に東日本大震災や原発事故などの対応に追われている状況で、じっくり検討してもらえないと判断し、福岡市長への「博多湾・和白干潟の環境保全のための提案」は提出しなかった。

野鳥公園構想の提案をしている大学研究室からの聞き取り調査には応じたが、和白干潟を守る会は反対の立場であることを回答した。人工島の和白干潟への影響を研究している学生から聞き取り調査では、これまでの経緯、現状、問題点などについて説明した。

(3) 沿岸部の開発について

雁ノ巣沿岸部の宅地開発が進み、住宅が建設され、景観、自然が損なわれた。人工島と香住丘を結ぶ人道橋の建設も進められている。一方、塩浜の下水処理場横の福岡工業大学野球場建設計画について、事前に大学側から説明の場を設定したいと申込みがあり、2度にわたって環境への配慮について意見交換した。このように、和白海岸付近の環境について、「和白干潟を守る会」に意見を求めるといった状況が生まれてきたことは、和白干潟を守る会の活動が社会的に認知され、一定の評価を得ているといえる。

(4) 福岡市との環境関係の協議、連携について

「エコパークゾーン水域利用連絡会議」では、水上パトロールへの参加、看板の設置協力を行ったが、ウェイクボードなどの和白海域への乗り入れは減っていない。

「和白干潟保全のつどい」では毎月1回の定例会に数人が参加、意見交換や提案、「和白干潟の生きものやハマボウを見る会」、「アオサのお掃除大作戦」、「バードウォッチング in 和白干潟」などのイベントを共催し、環境保全については福岡市と連携し、イベントの参加市民が増えてきている。「和白干潟保全のつどい」は、和白干潟まつりにもパネル参加した。

福岡市 NPO ボランティア交流センター「あすみん」のあすみんフェアに実行委員会メンバーとして参加して環境活動ボランティアを志す市民が増えるよう協力している。また、ボランティアインターンシップ体験説明会で和白干潟を守る会の活動紹介を実施。

環境局のマイバッグキャンペーンに協力、スーパーマーケットでのチラシ配りに2名参加。

(5) 広報の強化

和白干潟通信・リーフレット類

・和白干潟通信は1・4・7・10月に計4回各5,000部(1月:4,800部)を発行した。編集担当は6名、2回の編集会議を経て作成した。97号はパタゴニア環境助成金、98号~100号は(公財)イオン環境財団の助成金を受けて、ロータリー印刷(株)で作成した。特に、100号を達成したことは長年にわたって継続的に機関紙を発行することが困難な団体が多い中、賞賛すべきこととして、11月26日付読売新聞の紙面で「和白干潟の自然を守り、魅力をPRし、ラムサール条約登録に向けて意欲的に活動している」と取り上げられた。(H・P 参照)

配布先は、会員、マスコミ、行政関係、和白干潟の地域家庭、クリーン作戦参加者など。発送作業はみんなで行っているが、間違いが多いことから、発送・配布に関するマニュアルづくりが

必要である。

- ・リーフレット類では、「環境教育シリーズ 第4版:和臼干潟環境教育プログラム」を1万部増刷し、内容の改定も行った。
- ・「クリーン作戦と自然観察」のお知らせポスターは、東区役所、東市民センター、コミセンわじろ、公民館、郵便局、ホームセンターほか周辺大学(福岡工業大学、九州産業大学、福岡女子大学)にも掲示を依頼している。
- ・和臼干潟通信、リーフレット類は東区内公民館、臨海リサイクルプラザ、郵便局、パタゴニア福岡店、ギャラリー「風」、亀の井ホテル、喫茶「ほっと」、藍の家、薬局、画材店などにも置いてもらっている。

和臼干潟を守る会ホームページ

年間を通じ、守る会の行事予定や活動報告、和臼干潟の生き物などに関する情報を随時、写真も豊富に更新し発信している。ホームページ画面からクリック募金ができるように工夫され、読者は増えている。新たな参加者、企業もホームページより情報収集されている傾向にあり、守る会の活動にホームページの充実は不可欠である。担当者が年末に交代した。

イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」に参加

「幸せの黄色いレシートキャンペーン」に参加して4年目である。イオングループが全国的に実施しているキャンペーンで、環境や福祉などのボランティア団体を支援するため毎月11日に買い物したときの黄色いレシートを団体のボックスに投ずると、その1%相当額の商品がイオンから団体に寄贈されるという仕組みである。今年は、2月から12月まで、イオン香椎浜店とホームワイド和臼店(2011年3月より)で黄色いレシートの投函呼びかけを実施した。毎月5~6人が参加しており、延べ55人が参加した。呼びかけの時、干潟通信とリーフレットを渡している。

パタゴニア「ボイス・ユア・チョイス」キャンペーンに参加

パタゴニア福岡店で、来店者の環境保護団体を支援する投票数で支援団体への寄付を決めるキャンペーンが10月2回実施され、6名が参加。和臼干潟を守る会の活動をアピールするため活動内容や和臼干潟の自然がわかるパネルなどを作成展示、リーフレットの手渡しなどを行った。結果は屋久島海がめ館に次ぐ2位で、15万円の寄付をいただいた。

(6)講演活動

8月27日、福岡工業大学で開催の「福岡県環境教育学会第14回年会シンポジウムに山本代表がパネリストとして参加、「和臼干潟はみんなの宝ー和臼干潟の環境保全活動と環境教育」について講演した。

(7)情報の発信:新聞や雑誌、他団体の会報等に活動予定や鳥情報、和臼干潟の紹介を発信

- ・(財)日本自然保護協会(NACS-J)に年間スケジュール表送付、「自然保護」誌に「和臼干潟のクリーン作戦と自然観察」、「ハマボウを見る会」、「和臼干潟まつり」の掲載を依頼した。
- ・自然関係5誌に、「和臼干潟自然観察ガイド講習会」の案内掲載を依頼した。
- ・くすだひろこきりえ展「和臼干潟の息吹」(レストラン花もも5/6~5/31)を開催し、パンフレットや通信を配布した。

(8)取材協力:新聞社、テレビ局、雑誌などからの取材に協力

- ・地域動画ポータルサイト「来んね！TV」の取材(H・P参照)(2/26)
- ・タイ鳥類保護協会前事務局長の来訪、取材(3/2)
- ・山本代表に月刊「ソコト」誌5月号「日本を元気にする九州の100人」の「九州で活躍する環境人19人」の取材。(3/8)
- ・山本代表に JA 福岡東部の広報誌の取材(5/24)
- ・山本代表「日本鳥類保護連盟「私たちの自然」誌に「和白干潟は水鳥の宝庫」を執筆(6/10)
- ・福岡大学景観まちづくり研究室の人工島野鳥公園構想に関わる環境団体ソーシャルマップ作りの取材(11/1)
- ・法政大学学生の「人工島の和白干潟への影響」に関する研究へのインタビュー(11/4)
- ・柏原中学校教諭の山本代表へのインタビュー：福岡市中学校道徳教育授業の「郷土愛」テーマでの研究授業のため(副読本で和白干潟保全の画家のモデル)(11/23)

8. 対外団体との交流活動、協力・参加活動

- (1) 和白海岸定例探鳥会 毎月1回日本野鳥の会福岡に協力。
- (2) JAWAN・JEAN・ラムネット
 - ・JAWAN「干潟を守る日2011」参加：4月のクリーン作戦と併せて
 - ・JAWAN 総会：昨年続き、山本代表が運営委員に。シンポジウム「日本の湿地を守ろう！ラムサール条約 COP11 へ向けて」で、和白干潟の現状報告(東京在住の山本幸正会員)
 - ・JEAN「国際ビーチクリーンアップ(春・秋)」に参加
- (3) グリーンコープ
 - ・第23回和白干潟まつりの共催
 - ・遺伝子組み換えナタネ抜き取り隊に3名参加
- (4) 福岡市・福岡県
 - 福岡市
 - ・エコパークゾーン水域利用連絡会議
 - ・和白干潟保全のつどい
 - ・あすみんーあすみんフェア、ボランティアインターンシップ
 - 福岡県
 - ・「福岡県環境保全功労者」知事表彰を受けた
- (5) 他団体との交流と協力
 - ・東日本大震災で壊滅的被害を受けた「蒲生を守る会」への活動支援カンパ、干潟まつりでのパネル展示、蒲生を守る会の機関紙、資料等の交換など。
 - ・韓国仁川市視察団(市職員、干潟保全団体)12名のきりえ館・干潟見学、交流に協力(11/22)
 - ・福岡植物友の会の和白干潟の植物と鳥の観察会に協力(10/6)
 - ・福岡市南区横手校区環境活動委員会メンバーの和白干潟見学と交流会(12/2)
 - ・福島第一原発事故による環境破壊の問題を重視し、脱原発への署名に協力。
 - ・福岡市環境局「生物多様性と持続可能な利用に関するアンケート」に回答協力
 - ・環境省「持続可能な社会づくりを担う事業型環境 NPO 活動に関するアンケート」に回答協力(2/1)

- ・日韓環境情報センター登録リストに登録(2/3)
- ・日本野鳥の会福岡「探鳥会での危険を避けるための講習会」参加2名。(2/4)
- ・21世紀の巨大開発を考える会の要請で「豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業環境影響評価準備書への意見書」提出。(3/21)
- ・福岡工業大学ビオトープ研究会学生に和白干潟を案内協力(6/8)
- ・九州各県理科教員研修会に和白干潟のリーフレット販売と、二枚貝の海水浄化実験セット貸し出し協力(6/1,8/27)
- ・国交省「生物多様性保全活動に関するアンケート」調査に回答協力(10/12)

9. 「和白干潟を守る会」の運営に関して

(1) 定例会議・総会(毎月第4土曜日)

原則第4土曜日に、守る会事務所で「定例会議」を12回開催。そのうち2月は「総会」として開催した。出席者は各回13～20名。平均15名出席し、総会で活動方針を決めるほか、会の活動に関する報告、予定を共有し、重要な事項は定例会議で検討し、決定した。又、事務局会議を必要に応じて開催した。

(2) 助成

イオン環境財団から助成金

(3) 寄付

イオン九州(株)から幸せの黄色いレシートキャンペーンによりギフト券

キャノンマーケティングJから2回

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社から2回寄付

MS アンド AD から2回

パタゴニア福岡店の「ボイス・ユア・チョイス」キャンペーンで寄付

日立親切会から善行賞として寄付

会員や一般市民、観察会、干潟まつり、望年会オークション等でカンパを受けた。

(4) 2011年度の新規会員

・個人7名(池田尚美、森文子、猪山淑子、Lisatuoker-BuLL、倉掛節子、川崎喜代子、丹波昌代)

・団体 1団体(株式会社 ファーストソリューション)

(5) 2011年度末の会員数(新規会員を含む)

・個人会員：281名

・団体会員：9団体

10. パンフレット類の在庫

2011年度末のパンフレット類の在庫数は、概略次の通り。

- ・「和白干潟を守る会」リーフレット : 275部
- ・和白干潟自然案内 : 5,836部(和文4,809部 英文 1,027部)
- ・環境教育シリーズ(和白干潟の環境教育プログラム) : 9,923部

- ・環境教育シリーズ（和白干潟で見られる水鳥、底生動物、植物図鑑）： 8,012部
（和文7,772部、英文460部、韓文80部）
- ・ラムサール条約と和白干潟： 336部
- ・未来につなごう和白干潟～和白干潟を守る会20年のあゆみ： 76部
- ・観察マップ：189部
- ・守る会封筒：3000枚

11. その他

- ・海ノ中道海浜公園委託の鳥類調査に協力(毎月1回:山下、山之内、田辺、平山、惣田)
- ・望年会参加者 11名(12/25)・大掃除参加者13名(12/27)